

## 生駒市の西畑地区の 棚田・里山の再生と創造

いこま棚田クラブ

代表 出口 育宏

奈良県

### 1. はじめに

生駒市西畑の棚田は大阪府と奈良県にまたがる生駒山(標高 642m)の暗峠(標高 455m)から奈良県側に 30ha(200 枚)にわたって展開している。この棚田に面している街道は暗がり越え奈良街道(現国道 308 号)と称し、難波の宮から平城宮へ通る道でその昔遣唐使が通り、江戸時代には参勤交代の武士や大坂の商人がお伊勢参りに通る道で大変賑わったそうである。その昔から営々として築かれた棚田・里山が農村の高齢化、後継者不足、農業経済性の悪化に加えて生駒山を貫通する第二阪奈トンネル工事で水脈が切断され農業用水の不足などの悪条件が重なり耕作放棄地が増え荒廃が進んでいた。

西畑町自治会(世帯数 20、人口 80 名)は、2002 年に“この由緒ある棚田を後世に残そう”と全戸加入の「西畑棚田を守る会」を結成し、年数回町民総出で草刈りなどを実施していたが力不足は否めず景観ボランティアを探していた。

一方、私たちは大阪市にあるシニア自然大学(現 N P O 法人シニア自然大学校)で 1 年間にわたり自然生態系や自然環境についての講座を



修了したシニア自然大学の会員諸氏に働きかけ 写真 1 活動開始前の棚田(2003 年 10 月撮影) 2003 年 10 月に「いこま棚田クラブ」を設立した。

爾来、今年で 9 年目を数えるが毎週 1 回(第 1,3,5 日曜日、第 2,4 月曜日)に欠かさず現地に集まり“西畑地区の棚田・里山の再生と創造”をテーマに活動を続け、定例活動回数は今年 4 月に累計 400 回に達している。

### 2. 活動の経緯と背景

私たちが取り組んでいる区域は、西畑町の棚田全域の約 1 / 3 で面積は 1 0 h a ほどである。その内、約 1 / 2 は地元農家が自家用に田んぼや畑として農作物の栽培を続けている。残りの 1 / 2 が休耕棚田(放棄田)となっており、写真 1 のように草茫々の状態であった。地元では、これらの休耕棚田を復田(田んぼに戻す。)することは不可能であり草を刈って棚田としての景観が維持できれば良いとの希望であった。

私たちボランティア側は、シニア自然大学で自然環境に興味をもった仲間が集まり農事体験や自然観察の場として活用すると共に都市住民の居場所づくり、都市と農村の交流、地域おこしにもつながると大きな夢を持って活動を始めた。地元の方々もボランティアって何者?と云った目で見えており最初は期待もされていなかった。しかし、真夏の暑い日も

雨の日も毎週毎週集まって草刈りを続ける内に見る目も変わってきて、田んぼ、畑などを借りるように発展していった。

### 3. いこま棚田クラブの活動概要

毎月第1,3,5日曜日、第2,4月曜日を定例活動日として固定している。その他イベント、地域行事などは特別活動として随時行っている。会員は約70名でリタイアした都市住民や子育ての終わった主婦層が中心で活動日には私鉄の駅ターミナルに集合し、マイカーやタクシーを利用して現地（西畑の棚田）に向かい a m 9:30 ~ p m 3:30 位まで現地で活動をしている。活動の基本は①景観整備、②援農（農家のお助けマン）、③自然環境教育などとしている。

#### (1) いこま棚田クラブの活動

図1に示すように活動のコンセプトは

- ・自然環境重視型のアグリライフ
- ・都市住民の新しい居場所づくり
- ・地域の活性化
- ・自然環境学習
- ・自然環境保護活動をあげている。

10の活動グループを構成し、作業計画を推進する担当別リーダーを置く。実際の作業は当日参加者の中から必要人数を割り当てて行う。

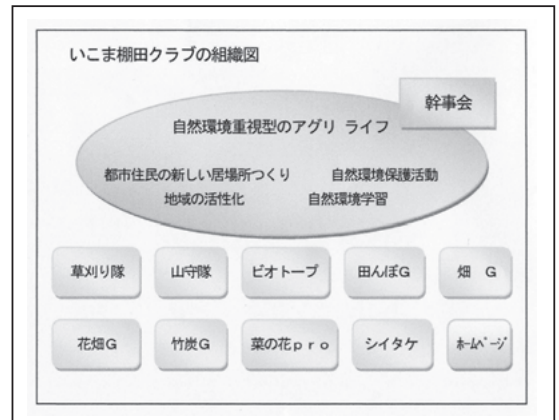


図1 いこま棚田クラブの活動

#### ①草刈り隊

休耕田の草刈りが中心で奈良県の刈払い機安全講習を受講したメンバーで月1回の一斉草刈りや田んぼ、畑などの草刈りを実施。

（刈払い機台数15台）

#### ②山守隊

里山林の整備が中心で毎年10月～3月の間は間伐、除伐、枯損木の整理、その他林内の遊歩道づくり、木製遊具製作などを実施している。

#### ③ビオトープ

休耕棚田を通年水張りのビオトープに活用している。水の管理、定期的に水生生物調査の実施。（次年度より小学生向けビオトープ観察会の実施予定）

#### ④田んぼグループ

休耕棚田を復活させて地元農家の指導の



写真2 休耕棚田の草刈りと野焼き



写真3 棚田ビオトープ

もと、苗床づくりから田植え、稲刈り、脱穀までを実施。(棚田4枚 15アール)

#### ⑤畑グループ

休耕田を転作した畑で年間を通じて野菜を栽培している。(10アール)棚田体験会にくる小学生の農事体験場として活用し、また収穫した農作物は会員で買い上げて(協力金)その収益はクラブの運営資金として使用している。(種苗、肥料、用具の購入)

#### ⑥花畑グループ

棚田に面した暗越え奈良街道(現国道308号)は、休日には歴史ウォークやハイカーで賑わう。景観整備の一環として休耕田を花畑に転用している。

#### ⑦竹炭グループ

棚田の山際は竹林で覆われていた。伐採した竹を放置しておけばやがて腐敗して二酸化炭素放出となる。伐採した竹を竹炭にすることにより永久に炭素固定になり、家庭用の脱臭、防湿、台所のぬめり取りなどに利用するほか畑に散布して土壌改良に利用している。竹炭窯の製作から竹炭焼きまでを実施している。

#### ⑧菜の花 p r o

休耕棚田を利用して菜の花エコプロジェクトに取り組む。市民生活協同組合「ならコープと」協働で実施している。(地球温暖化防止活動の一環)

新規畝起こし(連作不可)(9月)→菜の花の播種(10月)→間引き、草抜き、施肥→菜の花まつり(4月)→刈り取り、はさ掛け(6月)→脱穀、唐箕(6月)→搾油(業者依頼)→なたね油

廃食油回収(ならコープ)→BDF燃料化→ならコープ配送車で利用(20台)

#### ⑨シイタケグループ

里山林(落葉広葉樹林、コナラ林)の間伐コナラでシイタケの栽培。ほだ木づくり、植菌などは小学生向けイベントとして実施。



写真4 復田した田んぼの稲刈り



写真5 自主農園



写真6 花畑のニュース掲示板



写真7 コナラを使ったシイタケ栽培

⑩南高梅の栽培

休耕棚田でウメの栽培。将来、ウメの里として収穫した南高梅の販売を目指す。

(南高梅の栽培研究をされている和歌山県南部高校元教諭の指導のもと実施している。)



写真8 南高梅の栽培



写真9 みつばちの巣箱

⑪日本みつばち

棚田には菜の花、レンゲ、ウメ、そばなど蜜源が豊富でみつばちも多い。みつばちの巣箱を製作し設置している。

(2) いこま棚田クラブ活動実績 (2010年6月～2011年5月)

2010年度の活動回数 (定例活動)

定例活動回数 51回 延べ活動参加者 (ゲストは除く) 1448名 1日平均 28.4名  
生駒市西畑地区の棚田・里山の景観整備・援農は2003年より続けている。農地は毎年同じことの繰り返しである。活動面積が広がるとその景観維持が大変であるが少しずつ新しいことにも挑戦している。

■ 定例活動								
累積回数	月日	参加者数	累積回数	月日	参加者数	累積回数	月日	参加者数
358	6月6日	33	375	10月3日	26	392	2月6日	30
359	6月14日	35	376	10月11日	35	393	2月14日	24
360	6月20日	33	377	10月17日	40	394	2月20日	27
361	6月28日	39	378	10月25日	21	395	2月28日	22
362	7月4日	31	379	10月31日	26	396	3月6日	26
363	7月12日	19	380	11月7日	33	397	3月14日	25
364	7月18日	25	381	11月15日	27	398	3月20日	35
365	7月26日	23	382	11月21日	29	399	3月28日	24
366	8月1日	26	383	11月29日	28	400	4月3日	32
367	8月9日	30	384	12月5日	26	401	4月11日	25
368	8月15日	26	385	12月13日	27	402	4月17日	30
369	8月23日	24	386	12月19日	32	403	4月25日	22
370	8月29日	21	387	12月27日	26	404	5月1日	29
371	9月5日	23	388	1月9日	34	405	5月9日	24
372	9月13日	22	389	1月16日	25	406	5月15日	30
373	9月19日	71	390	1月24日	25	407	5月23日	19
374	9月27日	26	391	1月30日	27	408	5月29日	30
						回数合計	51	1448

表1 2010年度 (takara 助成期間) の定例活動実績



### (3) いこま棚田クラブの特別活動実績(2010年6月～2011年5月)

2010年度特別活動(イベント)回数 45回 参加ゲスト数 4776名

棚田・里山の再生とは単に物理的に休耕棚田の草刈り、雑木林の間伐あるいは植樹や草花を植えて景観を良くすることに留まらない。農村が衰退し昔ながらの生活が営まれないために現在の里山の危機がある。それには都市住民と農村の交流を盛んにし、特にボランティアによって絶えず人(特に子ども)の賑わいのある環境を創出しなければならない。また、自然に触れる機会の少ない都市住民(子ども達)を棚田に招いて自然の素晴らしさ、自然の偉大さ、自然の大切さを体験して頂きたい。

そのことによって農村(地域)にも、なりわいとは別に田舎の良さの認識を深め都市住民に喜んでもらえる環境と文化を提供することで自らの価値を高め、やりがいのある活動で地域が活性化する。このような考えから定例活動の中であるいは特別にスケジュールを組んで数多くのイベントを催している。

#### ■特別活動(イベント)

月 日	行 事 名	参加者数	備 考
6月6日	菜の花の刈り入れ	33	ならコープと協働事業
6月12日	菜の花の脱穀	15	〃
7月4日	共同草刈り・側溝清掃	30	西畑棚田を守る会と共同作業
7月17日	棚田・里山体験観察会	34	大阪府摂津市小学校(グリーンレンジャー)
7月26日	名古屋短期大学里山実習	13	名古屋短期大学宿泊研修
7月26日	大豆畑草刈り	10	西畑棚田を守る会と共同作業
8月1日	共同草刈り・懇親会	33	〃
8月8日	奈良県山の日(里山で遊ぼう)	32	いこま棚田クラブ
8月22日	そばの播種(臨時)	24	西畑棚田を守る会と共同作業
8月22日	高知県大豊町役場視察	20	いこま棚田クラブ、西畑棚田を守る会
9月19日	稲刈り(イベント)	71	いこま棚田クラブ
9月20日	奈良県環境フェア(大和高田市)	100	ブース出展(奈良県主催)
10月3日	菜の花エコプロジェクト(播種)	20	ならコープと協働事業
10月11日	棚田・里山体験観察会	25	大阪市東都島エコクラブ
10月17日	棚田・里山体験会(いもほり)	15	ガールスカウト(大阪)
10月17日	〃	33	ならコープ(生駒ネット)
10月23日	朝日新聞親子環境自然教室	70	シニア自然大学校運営協力
10月31日	Mt. Ikoma Harvest(イベント)	100	大阪の若者集団(IN/SECTS)
11月3日	平城宮跡プレ育樹祭イベント	300	ブース出展(奈良県農林部主催)
11月7日	生駒山暗越えウオーク	80	大阪府みどり公社主催
11月7日	棚田・里山体験会	25	ガールスカウト(奈良)
11月7日	そばの刈り入れ	20	西畑棚田を守る会と共同作業
11月12日	東京棚田フェスティバル	100	棚田ネットワーク主催(国連大学)
11月13日	〃	200	〃

11月21日	菜の花エコプロジェクト	20	ならコープと協働事業
11月29日	シニア自然大学里山実習	34	いこま棚田クラブ
12月5日	棚田・里山体験会	14	生駒市子ども連絡協議会リーダー研修
12月19日	収穫祭	70	西畑棚田を守る会
1月10日	大とんど	200	西畑棚田を守る会と協働
1月27日	味噌作り教室	18	西畑棚田を守る会
1月28日	〃	10	〃
1月30日	生駒市環境シンポジウム	400	生駒市主催(環境行動賞受賞)
3月9日	オーライ!ニッポン大賞受賞式	200	農水省主催(東京オリンピックセンター)
3月20日	共同草刈り&懇親会	50	西畑棚田を守る会と共同作業
3月23日	里山林整備事業現地検査	7	奈良県農林部、生駒市産業振興課
4月10日	苗床づくり	10	西畑棚田を守る会
4月17日	菜の花まつり	210	ならコープと協働
4月24日	アースデー奈良(奈良公園)	450	ならコープ主催
4月25日	近畿大学農学部里山実習	30	いこま棚田クラブ
4月29日	ふろーらむスプリングイベント	500	生駒市主催(花のまちづくりセンター)
5月9日	近畿大学農学部里山実習	30	いこま棚田クラブ
5月21日	生駒山スカイウオーク	1000	生駒市主催(一般市民参加)
5月27日	南生駒小学校(3年生)遠足	90	いこま棚田クラブ、西畑棚田を守る会
5月28日	田んぼの代かき	10	いこま棚田クラブ
5月29日	田植え(雨のため畑と工作に変更)	20	生駒市ボーイスカウト、近畿大学生
回数合計	45回	4776	

表2 2010年度(takara助成期間)の特別活動実績



写真10 ブース出展  
(生駒市環境シンポジウム)



写真11 自然工作教室  
(奈良アースデー)



写真12 里山体験会  
(小学校校外授業)

表2に示すように実に多くのイベントを実施している。実際のところはやりすぎて本来の景観整備(草刈り、石垣出し、間伐、除伐)、自主農園(畑)の栽培などに支障を来す

こともあり、メンバーからはブーイングが出ていることも承知している。しかし、地元との共同作業や依頼は最優先にしなければならない。また、私たちの活動の社会的認知度も向上し、奈良県、生駒市などの行政レベル、奈良NPOセンター、奈良生活協同組合などの公的機関、その他大学、小学校などからの依頼も増え、どれも引き受けざるを得ない状況にある。これらはいずれも自然環境、自然保護、里山保全、子どもの環境教育、地域おこしに欠かせない社会貢献活動であると自負している。

一市町村（生駒市西畑町）での活動が全国レベルで注目されるようになり、里山再生に取り組む高知県大豊町からの視察、棚田100選などで知られる棚田ネットワークからのお誘いなど活動範囲が大きく広がってきていることは喜ばしいことである。

#### （４）里山の活動に継続的に関わっている動機（いこま棚田クラブの場合）

独立行政法人 森林総合研究所(関西支所)が発行している「里山に入る前に考えること」—行政およびボランティア等による整備活動のために—と云う冊子によると里山での活動に継続的に関わって行くための動機として4つのタイプがある。

関与のための動機タイプ	内 容
教育・人間形成	体験による子ども・青年層への環境教育 人格形成、地域学習の場としての効果
生活の質の向上	レクリエーション・趣味的活動、参加者同士の交流などによる生活への好影響
地域の基盤形成	地域環境の整備・向上とそれに伴う生活基盤の拡充、地域活性化への期待
環境行動意欲	環境問題に対する貢献を実現しようとする意欲

表3 動機タイプと内容

#### いこま棚田クラブの活動メニュー

施策メニュー	関与過程 タイプと の比較				関与の前段階		いこま棚田 クラブの 活動
	教育・人間 形成効果	生活の質 向上効果	地域の基盤 形成効果	環境行動 意欲	場の紹介 提供	公的担保	
炭焼き	○	○	○	○			●
森林ミュージアム	○	○	○	○			
活動団体補助・助成	○	○	○	○			
農山村体験	○	○	○				
木工クラフト	○	○					●
子どもの遊び場	○	○					●
炭焼きの人材保護文化の保護	○		○	○			

人材プロデュース	○		○	○			
里山案内人	○		○	○			●
便益施設整備	○		○				
資機材提供・支援	○			○			
指導者向け講習会	○			○			
環境学習	○						●
地域学習	○						
民具展示	○						
植樹・植栽		○	○	○			●
バイオマスエネルギー利用		○	○	○			
間伐材利用		○	○	○			
都市農村交流		○	○				●
樹林に埋もれた史跡の整備		○	○				
賃貸(里山オーナー)		○	○				
林相整備		○		○			
除間伐		○		○			●
郷土苗育成		○		○			●
ハイキング		○					
キノコ作り		○					●
どんぐり拾い・遊び		○					
竹林整備			○	○			●
棚田管理			○	○			●
竹林・人工林の広葉樹林化			○	○			
寄付			○	○			
鳥獣害対策			○	○			●
耕作放棄地管理			○	○			●
シカ肉の活用			○	○			
牛・羊など家畜の放牧			○	○			
協定制度			○	○			
防災施設整備			○				
ヤマビル対策			○				
クスギ林の育成			○				
寺社周辺林の整備			○				
枯れ木伐倒			○				
観光拠点整備			○				
ペレットストーブ研究開発			○				
公園整備			○				
動植物保全再生				○			●



ビオトープ創造				○			●
保全活動ネットワークの形成				○			●
里山トラスト				○			
イベント実施					○		●
情報提供					○		
企業との協力					○		
里山の日					○		●
地域指定と行為制限						○	
保全計画						○	
審議会設置						○	
公有地化						○	

表 4 施策メニューと活動の動機づけ

#### 4. いこま棚田クラブの活動成果

棚田の景観整備の成果は継続して美しい景観を保つことである。棚田は毎年春になると雑草が生い茂り、草刈りとの格闘がはじまる。田植え、菜の花の栽培、そば、大豆の栽培花畑すべて1年周期の繰り返しである。10haと云う広大な面積と里山林（整備完了区域3ha）の景観を継続保護していくことは、地元民、ボランティアのたゆまぬ努力の成果である。そして先にも触れたように物理的に美しいだけでなく、里山を楽しむために多くの人に来てくれることである。

幸い、地元民の熱意ある協力、私たちボランティアの活発な活動などにより例年以上の成果を産み出したと云える。また、長年の活動を評価して頂き生駒市長より環境行動賞の受賞、農林水産省より第8回オーライ！ニッポン大賞の受賞と云う光栄に浴した。この陰には貴Takaraハーモニストファンド様からの助成金を活動資金として使わせて頂き活動の大きな支えになったことに感謝している。

2010年度の活動の中で特徴的な活動を以下に述べたい。

##### (1) 里山林機能回復整備事業（5年目）

奈良県では平成18年度から県民みんなで森林を守り育てるという意識の醸成と森林環境保全を目的として森林環境税制度が実施されている。（県民税に個人は年額500円、法人は均等割額の5%を上乗せして負担している。）税収額は年間3億5千万円程度である。

この制度の内容は表5に示すがいこま棚田クラブはその中の里山林機能回復整備事業を実施している。これは県農林部の指導のもと民有地の森林を西畑町地権者と当クラブが里山林整備協定を結んでいる。（5ヶ年計画）このような整備実施団体は奈良県下で21団体である。今年が5ヶ年計画（整備面積2.5ha）の最終年（整備面積0.55ha）である。

県と生駒市による実施区域の測量が2010年7月に行われ10月～翌年3月までの間に10名以上が一斉に里山整備に入り全期間で12回（参加者数134名）実施した。（表6）

2011年3月には県と生駒市による整備状態の現地検査があり非常に良好な整備状態であると評価された。また、この制度は森林の整備は元より利活用に重点をおいている。

里山林体験会や里山実習などを2010年度は16回実施し延べ参加者数は780名を数えている。(表7)

□森林環境税事業費内訳

(単位千円)

	18年度	19年度	20年度	3ケ年
森林の多面的機能発揮を目指す取り組み	177,131	278,122	195,364	650,617
奈良の元気な森林づくり推進事業	4,323	4,367	3,564	12,254
森林環境保全緊急間伐事業	172,808	273,755	191,800	638,363
自然との共生を目指す取り組み	28,132	32,256	29,636	90,024
里山林機能回復整備事業	8,847	5,462	5,551	19,860
森林環境教育推進事業	19,285	26,794	24,085	70,164
合 計	205,263	310,378	225,000	740,641

表5 森林環境税の使いみち(平成18年度~20年度)

奈良県農林部林政課報告書より

□いこま棚田クラブ整備活動実績

年 月	内 容	回 数	参加者数
H22/10	竹、倒木整理、枯損木整理	2	16
H22/11	竹、倒木整理、枯損木整理	2	21
H22/12	小木伐採、枯損木伐採整理	2	20
H23/1	小木伐採、枯損木伐採整理	2	22
H23/2	小木伐採、枯損木伐採整理	2	33
H23/3	小木伐採、枯損木伐採整理	2	22
合 計		12	134

表6 いこま棚田クラブ整備活動実績

□いこま棚田クラブ利用活動実績

年 月	内 容	回 数	参加者数
H22/4	里山自然観察会	1	200
	里山実習(近畿大学農学部生)	1	30
H22/5	里山実習(近畿大学農学部生)	2	60
	里山体験観察会	1	38
	里山自然観察会	1	98
H22/7	里山体験観察会	1	34
	里山実習(名古屋短期大学生)	1	13
H22/8	里山で遊ぼう(奈良県山の月間)	1	32
H22/10	里山体験観察会	1	25
	里山体験会(朝日新聞親子教室)	1	70
	M t . I k o m a H a r v e s t	1	100
H22/11	里山体験会	1	25

H22/11	里山実習（シニア自然大学）	1	3 4
H22/12	里山体験会	1	1 4
H23/3	里山林機能回復整備事業（検査）	1	7
合計		1 6	7 8 0

表7 いこま棚田クラブ利用活動実績



写真13 里山林整備



写真14 里山実習（大学生）



写真15 里山体験会

## （2）大学生向け里山講座

### ①近畿大学農学部 環境管理学科

毎年4月から環境管理学科2回生の里山講座を行っている。1回当たり30名が生駒市西畑の里山で里山保全の講義と里山林の整備実習を行っている。主に里山林内の遊歩道（階段）づくりを体験する。事前に間伐材による枕木、杭などを当クラブで準備しておき当日は階段作りに入る。実作業の体験と我々社会人との交流で大変人気がある。全学生150名を5回に分けていこま棚田クラブの活動日には上記の作業を行い計3回で毎年100mほどの遊歩道が完成している。

（H22年 4/26 5/10 5/24 H23年 4/25 5/9 5/23（雨天中止））

### ②名古屋短期大学 現代教養ゼミ

名古屋短期大学の現代教養ゼミ生の里山講座（1泊2日）を実施した。

H22年7月25日（日）講義 16:00～18:00 生駒山麓公園ふれあいセンター（泊）

H22年7月26日（月）里山実習 9:00～16:00 参加者 女子学生8名 指導教授1名  
 里山林内のサクラ広場に子ども向け木製遊具の設置を始めているが今回の里山実習でその遊具作りを体験してもらった。学生たちの作った遊具で里山体験イベントで来る子どもたちに楽しんで頂くことで学生たちもやりがいを感じていた。

次年度も名古屋短期大学生によって新しい遊具の建設が計画されている。



写真16 丸太渡りの建設



写真17 完成した丸太渡り



写真18 学生とのミーティング

③奈良県立大学講座（ボランティア概論1 里山保全活動）

H23年4月22日（金） 奈良県立大学講義室 受講者61名

毎年4月より2回生対象にボランティア論1として全15回の講座が開かれる。

その中の1コマを「里山保全とボランティア活動」と題して講義を行っている。学生のレポートによると里山保全やボランティア活動に大変興味を持っていることが良く分かる。後期（10月～12月）にはこの中からインターシップとして現場実習を選択する学生もある。

□受講学生のレポート抜粋（2例）

私は今日の講義を聞いて“いこま棚田クラブ”と聞いた時のイメージと変わりました。

初めに“いこま棚田クラブ”の活動と聞いたときにイメージした活動内容は、地域資源を活用して棚田に色々なものを植えたり、育てたりするようなボランティア団体ということです。しかし、今日、出口さんのお話を聞き、子どもや学生、地域の大人も参加し、何かを植えたり、いもを掘ったり、遊具を作ったりとただボランティアとして環境に良いことをするだけでなく、人々とのコミュニケーションをはかることも大切にしていくことが分かりました。そして、こういったたくさんの方々の年齢層の参加があることによって地域住民の意識が変化してきたというのには私は感動しました。

今後の課題として最も大きい問題は、やはり後継者がいないと云うことだと思います。ただでさえ、少子化と云われる今、これを解決することはとても困難だと思えますが、学生や子どもへの呼び掛けによって、棚田や里山に興味を持つ人が増えたらいいなと思いました。

■学生レポート119

棚田クラブの活動は単にボランティア活動の効果だけでなく地域住民の意識の変化をはじめとする地域社会の活性化と云う行政が目的としているような効果を発揮しているのは大変素晴らしいと思います。

一番印象に残ったのは「お金をもらわないからやっている」と云う言葉です。お金をもらえないからと云う理由でボランティア活動は一般的に軽んじられているイメージがあるが逆にお金をもらわないからすると云うのはボランティアにはお金以上の満足感、達成感があるのでそうおっしゃったのだと思います。うつ病や自殺が増加しているのはこのような「満足感」と「達成感」を感じることができないからではないだろうか。

話を聞いていてボランティアは分野に影響するだけでなく社会全体に影響するものだと思えてボランティアの新たな視点を学ぶことが出来て良かった。

■学生レポート124

（3）菜の花エコプロジェクト活動

本活動は休耕棚田の活用とエコ活動（地球温暖化防止）の一環として「西畑棚田を守る会」、「市民生活協同組合ならコープ」、「いこま棚田クラブ」の三者協働で実施している。

菜の花は連作不可のため毎年新しい休耕棚田で栽培している。（3ヶ所を回転）

ならコープでは今年度より新たに組合員を募集して「里山体験と菜の花栽培」グループを作り毎月我々の活動に参加している。毎年4月に開催する「菜の花まつり」は生駒市広報や新聞記事により、ならコープ会員の他、生駒市、奈良市の一般市民の参加もあって生駒市



の一大イベントとなっている。

## いこま棚田クラブ日誌

## 第5回菜の花まつり

2011年4月23日号より

2011年4月17日(日)快晴の空の下、第5回菜の花まつりが開かれました。今年はスケジュールを1週間遅らせたにも関わらず満開の菜の花が棚田一面を彩りました。同時にヤマザクラ、レンゲ、タンポポなども一斉に開花しました。菜の花の咲いている面積も過去の菜の花まつりでも一番多く、それにも増して参加者が285名と生駒市の一大イベントになりました。景観整備の一つとして休耕棚田に菜の花を植え地球温暖化防止に役立てようと始めた「菜の花エコプロジェクト」も今年で5回目となります。

昨年10月に種を蒔いて、その後間引き、草抜き、施肥などの面倒を見ながら今年4月には菜の花が咲き、6月から7月にかけて刈り取り、はさ架け、脱穀、乾燥と続きます。

搾油は滋賀県の業者に依頼します。この活動は西畑町自治会、西畑棚田を守る会、生活協同組合”ならコープ”といこま棚田クラブが協働で実施しています。

### 「菜の花エコプロジェクト」とは

地球温暖化の原因となる温室効果ガスの発生を抑制するために菜の花を栽培し使用済みの天ぷら油を回収して軽油の代替燃料として循環させる取り組みです。ならコープではお店で回収した廃食油をバイオ燃料に再生して配達車両20台に利用しています。



写真19 菜の花まつり



写真20 里山林内で遊ぶ子どもたち



#### (4) 第8回オーライ！ニッポン大賞の受賞（農林水産省）

「オーライ！ニッポン大賞」は、都市と農山漁村を往来する新たなライフスタイルの普及や定着化を図るため日本各地で都市と農山漁村の交流を盛んにする活動に積極的に取り組んでいる団体、個人を表彰するもので「いこま棚田クラブ」が他の3団体とともにオーライ！ニッポン大賞に選ばれました。

## オーライ！ニッポン大賞

# いこま棚田クラブ

(奈良県生駒市)



### PRコメント

荒廃した棚田の景観ボランティアとして2003年設立の任意団体。毎週1回30名ほどのボランティアが棚田に出かけ景観整備、援農、自然環境教育を3本の柱に活動を続けて8年になる。

奈良生活協同組合（奈良コープ）、近畿大学農学部などと協働で草刈り、間伐、田んぼ、野菜畑、菜の花エコプロジェクト、ピオーチ、竹炭、しいたけ栽培、小学生対象の棚田・里山体験会など数多くのイベントを実施し都市住民と農村の交流を図って棚田・里山の再生と地域活性化を目指している。

活動年数	8年
年間の活動日数	70日
主な活動拠点施設	生駒市西畑町自治会館
主な活動エリア	生駒市西畑町の棚田・里山
年間の交流・来場者数	おおよそ 1,800人

生駒市西畑町は、生駒山を越えて奈良と大阪を結ぶ暗越奈良街道に面しており、遣唐使が通った道とも言われる地域である。この由緒ある景観を残そうと地元住民が「西畑棚田を守る会」を結成したが、20世帯80人の集落では力不足で困っていたところ、自然環境や植物生態系等を学ぶNPO法人シニア自然大校内で有志を募り、「いこま棚田クラブ」を設立。講座修了生を中心に、毎週1回の定例活動やイベント等の特別活動を含め、年間70日以上は現場で活動を行っている。会員は約70名で毎回30名程が参加。行政の支援は受けず、民間ボランティアと地域自治会が協働で棚田の再生を行っている点が特徴で、棚田の休耕田の草刈り（3ha）や石垣出し、休耕田を利用したそばや大豆の栽培・作業支援のほか、小学生対象の棚田里山体験や大学生対象の里山実習の自然環境教育として、またシニア自然大講講座生が年間90名ほど訪れる教育実習の場としても活用している。奈良県の委嘱を受けて毎年0.5haの里山林（向山）で行う間伐や枯損木の整備、稚草栽培や林内遊歩道づくりなどは、近畿大学農学部の学生も参加して実施している。奈良コープと共同で休耕田に栽培する菜の花から油を採取し、廃油をBDF燃料へ利用するエコサイクルを構築し、畝起こしから脱穀までをイベントとして開催、また菜の花の棚田は新たな観光スポットにもなっている。棚田の活気が地域へも伝わり、神事である大どんとが40年ぶりに復活、菜の花まつり等のイベントでの地元の農産物を販売など、共同草刈りや収穫祭等で住民が集まる機会も増え、地域の活動も活発になってきている。直近1年間（2009年11月～2010年10月）の活動実績は、定例会53回（延べ1503名）、特別活動41回（延べ2766名）と活動回数も参加人数も増加している。



第8回オーライ！ニッポン大賞受賞パネル

## (5) 地域おこし

西畑町自治会（西畑棚田を守る会）は20世帯80人の小規模な集落で農業を辞めた家や全て兼業農家である。自家用に田畑で農業をしており耕作放棄された棚田までは手が回らなかった。私たちと協働で棚田の再生を始め、地元の共同意識も高まりボランティアとの協働活動に積極的に取り組んでいる。

年数回の共同草刈り、休耕棚田でそば、大豆の栽培、無添加の味噌作りと販売、伝統行事「大とんど」の復活、生駒市行事の生駒山秋夕向への出店（農作物販売）、菜の花まつりへの出店、収穫祭と私たちと協働のイベントが盛んになり、水車の建設、あずまやの建設、暗越え奈良街道（国道309号）から水車までの遊歩道の整備など活気ある町づくりに挑戦している。



写真21 大とんど（成人の日開催）

## (6) 出版図書

いこま棚田クラブの活動が注目を浴びようになり、色々な切り口（自然保護、地域活性化、大学との協働）から執筆依頼が来ている。書物として一般の人々に読んで頂くことは喜ばしいことと思う。以下に発行書籍の紹介をする。



自治研なら（2010年11月）  
発行：奈良県地方自治研究センター  
地域と協働で棚田の再生を実現  
著者：出口 育宏



農業と経済（2011.2）  
臨時増刊号  
発行：昭和堂  
大学農学部と協働でとりくむ地域の里山再生活動  
著者：出口 育宏

## 5. おわりに

私たちの活動は最初(2003年6月)の小さな集まりからスタートした。発足当初から今日のような活動を描いていたわけでは勿論ない。ドイツの国民性として良く云われる“走りながら考えよう”と始めて活動内容や目標はその折々に生まれてきたものである。

この固定しない自由な考えがみんなの共感と呼んで今日まで続いてきたものと思われる。自然や農業は季節ごとの繰り返しである。でも毎回の活動のたび新鮮な感動が生まれる。

こんな小さな活動に社会的評価（Takara ハーモニストファンド助成、オーライ！ニッポン大賞、生駒市環境行動賞など）を受け、活動している私たちに勇気を与えて頂いた。

これからも“自分のためはみんなのため”とやわらかな心で活動を続けて行きたいと思っている。ご支援有難うございます。

